

エコアクション21とSDGsを活用した環境経営の推進

～指定検査機関の経営ビジョン実現に向けた取り組みへの活用～

一般財団法人福岡県浄化槽協会（EA21推進スタッフ）○坂下志保美、瀬良垣樹、宮本秀文、御舩千夏子

1. はじめに

一般財団法人福岡県浄化槽協会（以下、「当協会」という。）は、「水環境の保全を通じて持続可能な社会づくりに貢献する」を経営ビジョンとして掲げ、浄化槽法に基づく福岡県知事の指定検査機関として事業を展開している。

環境省が策定した環境経営システム「エコアクション21（EA21）（注1）」を2007年度から導入し、2020年度からは「EA21」と「SDGs」を関連づけて、両方の視点に立った事業経営に取り組んでいる。

そこで、環境経営目標の設定や評価方法などEA21とSDGsを活用した当協会の活動の特徴について紹介するとともに、活動の成果及び今後の展望について報告する。

（注1）EA21とは、環境省が策定した日本独自の環境マネジメントシステム（EMS）。

国のガイドラインに基づき、第三者機関が審査・認証・登録（2年更新）を行っており、企業の社会的評価の向上、社員のモチベーションアップ、「環境経営レポート」公開による認知度向上につながる。

2. 「EA21」の仕組みと当協会の活動の特徴

EA21は、図-1に示すように、事業者が環境経営目標を設定し、PDCAサイクルを活用して進捗管理を行う仕組みとなっている（実線囲み）。当協会では、この仕組みを基本に、Plan、Do、Checkの各段階で、独自の視点（点線囲み）を盛り込みながら活動を進めており、次ページからその内容についてご紹介する。

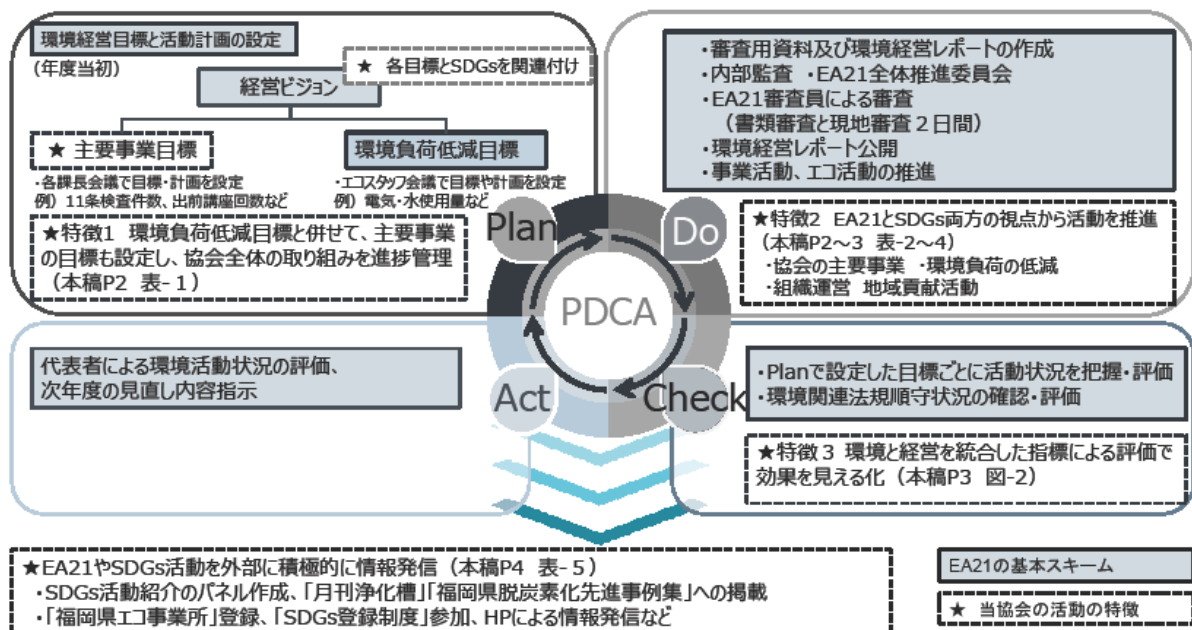


図-1 EA21の基本スキーム（仕組み）と当協会の活動の特徴

3. 環境経営目標の設定 —指定検査機関の主要事業に関連した目標を独自に設定（特徴1）—

E A21 では、国が示したガイドラインに基づき、まず年度初めに、環境経営目標と活動計画を定めることとされている。

当協会では、ガイドラインで示されている電気やガソリンの使用量など「事業活動に伴う環境負荷の低減をめざす目標」と併せて、表-1 で示すように、11 条検査件数、出前講座回数など「協会の主要事業に関する目標」を設定し、E A21 の評価手法を活用して事業の進捗管理を行っている。

表-1 環境経営目標の設定状況

目標の種類	目標設定項目
主要事業の目標 (協会独自目標)	11 条検査 (件数)、出前講座 (回数)、指定採水員指定講習会 (受講者満足度) BOD 超過原因調査 (改善事例数)、調査研究 (件数)、脱炭素化推進事業 (申請数)
環境負荷低減目標	電気使用量、ガス使用量、ガソリン使用量、CO ₂ 排出量 廃棄物排出量 (一廃、産廃、特管産廃)、水使用量、化学物質使用量
<p>*目標は、「事務局・福岡検査センター」「筑後検査センター」「筑豊検査センター」ごとに設定。 各センター及び協会全体の目標達成状況を把握し、上半期・通年で評価している。</p> <p>*目標の達成状況は、ひと目でわかるように 顔文字で表現している。 😊 : 達成 ☹️ : 未達成</p>	

4. 「EA21」と「SDGs」両方の視点で活動を推進（特徴2）

当協会では、2020 年度からE A21 とSDGs を関連づけ、両方の視点から活動を進めている。その内容は、月刊浄化槽 2023 年5月号で一部ご紹介したが、各事業をSDGs と関連づけた上で、事業の進捗管理（事業目標・活動計画設定、取組状況の集約・評価、次年度活動計画への反映）にE A21 を活用している。

具体的には、職員アンケートの結果をもとに、事業内容を、(1)協会の主要事業 (2)環境負荷の低減 (3) 組織運営・地域貢献活動の3つに区分し、SDGs との関連づけを行っている（表-2～4）。

このうち法定検査など主要事業は、浄化槽に関わっておられる事業者や行政機関など、多くの方々と連携して取組を進めることにより、社会テーマへの貢献（SDGs の推進）につながっている。

(1) 協会の主要事業（法定検査・普及啓発など）とSDGs（表-2）

事業内容	事業と関連が深い浄化槽関係者					つながりが深い SDGs
	メーカー 工事業者	設置者	維持管理 事業者	行政	学校 地域	
法定検査	○	○	○	○		
調査研究や研修等を通じた技術提供	○		○			
脱炭素化推進事業	○	○	○	○		
啓発事業		○		○	○	
						

(2) 環境負荷の低減（省エネ・3Rなど）とSDGs（表－3）

事業内容	つながりが深いSDGs
新社屋に省エネ型設備を多数導入し、環境負荷の大幅低減を実現 事務室の天井に九州産木材を利用し、人と地球にやさしい空間で仕事の効率をアップ EV車（1台）と充電設備（2基）を導入 業務管理システムと車のナビを連動させ、浄化槽の効率的な検査ルートを毎日設定し、ガソリン使用量を削減（現場検査年3万件程度実施）	
⇒ 16年間の環境負荷低減の取り組みによるコストの削減効果は、約2,953万円となった。	

(3) 組織運営・地域貢献活動（各種宣言・地域清掃活動など）とSDGs（表－4）

事業内容	つながりが深いSDGs
福岡県などが設けた各種宣言を採択 （例）子育て応援宣言、ふくおか健康づくり団体事業所宣言等 感染症対策（リモート研修・手指消毒等）、BCP 地域清掃活動の実施	

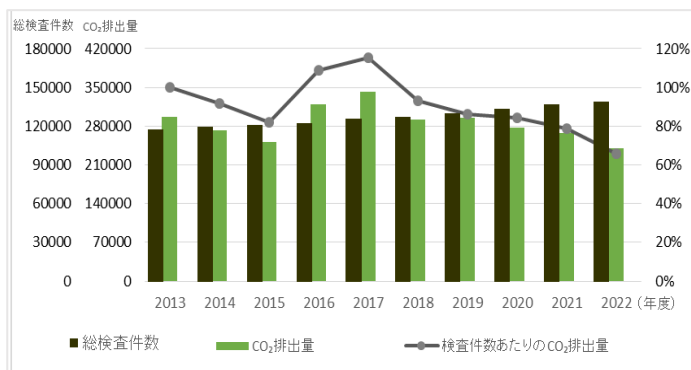
5. 環境と経営を統合した評価指標の導入（特徴3）—活動状況と環境負荷の推移を総合的に評価—

当協会では、E A21の活動開始以降、浄化槽の受検率向上、検査件数拡大に努めつつ、様々な環境負荷低減対策を進めてきた。またこの間、筑豊検査センターの新築移転、福岡・筑後両検査センターの水質検査機能の集約、事務局の新社屋建設など、検査体制の整備・効率化にも取り組んできた。

これら当協会の活動を総合的に評価できるように、指定検査機関の活動状況（検査件数・検査収入額）と環境負荷量の推移を併せて評価できる指標（検査件数あたりのCO₂排出量など）を新たに設定して動向をグラフにまとめた（図－2）。

CO₂排出量は、筑豊検査センターの新築移転（2016年度）に伴い増加したが、その後の省エネ対策で減少に転じ、福岡・筑後両検査センターの水質検査機能の集約（2021年度）、事務局の新社屋建設（2022年度）に伴う電気使用量の削減効果でさらに減少している。

また、低燃費車の導入や業務管理システムとナビを連動させた効率的な検査ルート設定によるガソリン使用量削減効果も加わり、2022年度には検査件数が2013年度比で18%増加するなか、CO₂排出量は19%減少し、検査1件あたりのCO₂排出量は31%（検査収入額あたり30%、床面積あたり33%）減少した。



図－2 検査件数あたりのCO₂排出量の推移

今後ともこれらの情報は、環境に配慮した効率的な事業経営の中長期的評価や、福岡県計画の指標（注2）との比較などに活用する予定である。

（注2）福岡県地球温暖化実行計画では、業務部門のエネルギー排出量削減の目安として、「2030年度に2013年度比で床面積あたり20%削減」が示されている。




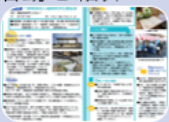

6. エコ活動の主な実績と活動状況の情報発信

当協会では、2007年度以降、E A21 やSDG sを順次導入してエコ活動に取り組み、イベントにおける活動パネルの展示やホームページ掲載など、様々な機会をとらえ活動内容を情報発信している。

これらの活動や情報発信を評価していただき、環境省が後援されている「環境経営レポート大賞・九州」で、2021年度に「SDG s賞」、2022年度には最優秀賞にあたる「レポート大賞」を受賞した（表-5）。

今回の受賞を励みとして、これからも積極的に環境経営に取り組んでいきたいと考えている。

表-5 当協会のエコ活動の主な実績（2007～2023年度）

年度	福岡県浄化槽協会におけるエコ活動の主な実績
2007年度	筑後検査センターでE A21の活動開始、認証取得
2008年度	協会全体でE A21の活動開始
2011年度	筑後検査センター：福岡県エコ事業所最優秀賞受賞（電気使用量削減部門）
2019年度	筑豊検査センター：福岡県エコ事業所最優秀賞受賞（同上）
2020年度	SDG sの活動開始（職員全体研修、職員アンケート、活動方針設定、情報発信）
2021年度	E A21「環境経営レポート大賞・九州」でSDG s賞受賞
2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・E A21「環境経営レポート大賞・九州」で最優秀賞にあたるレポート大賞受賞 ・福岡検査センター：福岡県エコ事業所最優秀賞受賞（地球にやさしい活動部門） 優秀賞受賞（電気使用量削減部門） ・福岡県が新設した「SDG s登録制度」に第1期事業者として登録 ・福岡県が「福岡県脱炭素化先進事例集」で当協会の活動を紹介 <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>環境経営レポート大賞</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>エコ事業所表彰</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>福岡県SDG s登録制度</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>福岡県脱炭素化事例集</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>【当協会ホームページ】</p> </div> </div>
2023年度	月刊浄化槽（2023年5月号）でSDG sを踏まえた事業活動事例を紹介

7. まとめと今後の展望

今回ご紹介した環境経営システム「E A21」は、環境経営目標を幅広く設定し評価することにより、「指定検査機関の事業」とそれに伴う「環境負荷を低減する取組み」両方の進捗管理に役立つ。

また、これらの目標を組み合わせて、環境と経営を統合した評価指標を導入・活用することにより、事業経営をより効率的・効果的に進めることができる。

さらに、事業内容や目標をSDG sと関連づけることで、環境以外の社会テーマと事業とのつながりにも関心が広がり、職員のモチベーションや企業価値の向上、関係者との連携強化につながる。

一方、当協会では、事務局や各検査センターの若い職員が中心となってE A21活動を担っており、「目標設定、職員への呼びかけ、成果の評価・共有」のプロセスを早期に経験できるよい機会となっている。

このこともあって、当協会の取り組みは、まだまだ試行錯誤しながら進めている状況にあり、全国の検査機関が取り組んでおられる事業やエコ活動の進捗管理や情報発信の方法についてご教示いただき、当協会の活動をよりよいものとしたい。

「浄化槽に関わる仕事」は、「持続可能なまちづくり」をはじめ、SDG sとの親和性が高い仕事であると感じている。これからも、E A21とSDG sを活用して環境経営を推進するとともに、関係者や自治体に役立つ情報を発信して浄化槽の活躍の場を拡げ、当協会の経営ビジョンで掲げている「水環境の保全を通じた持続可能な社会づくり」に貢献してまいりたい。